

職場に「組合の仲間」を増やして要求実現を 運動の成果をチカラに、働きやすい職場づくりを



第564号

発行所
自治労連愛媛県本部
松山市三番町8丁目10-2
電話(089)931-7312
FAX(089)933-1699
jehime@sage.ocn.ne.jp
発行人 森賀 俊二
編集人 和氣 伸二

(組合員の購読料は組合員
のなかには含まれていません)

日 程

- 【1月】
- 26 自治労連中央委員会 (京都～27)
- 27 愛媛労連中央委員会
自治労連・共済組合議員
団総会・研修会 (京都～28)
- 【2月】
- 3 自治労連非正規全国交流
集会 (一部web・大阪～4)
- 4 保育部会幹事会
- 10 県本部中央委員会・県本
部労女学習会 (松山市)
自治労連町村職部会臨時
総会 (web)
自治労連現業評丈大道府
県代表者会議 (web)
- 13 県本部統一要求提出
(全県～21)
保育部会県子育て支援課
要請 (県庁)
- 16 自治労連共済学校
(東京～17)
- 17 医療介護評議会 (内子)
- 23 自治労連青年・女性ステッ
プセミナー (本部～24)
- 24 自治体保育労働者の全国
集会in静岡 (～25)

組合の強化拡大、仲間を増やすことこそ 要求実現の最大の保障。加入の声かけを

県本部は1月13日「組織集會」を開催し9単組13人が参加。春の組織拡大期間での①新規採用職員②非正規職員を含む全ての未加入職員・再任用職員の加入呼びかけ、③各単組で目標の具体化を進め、あらゆる活動に組織拡大を位置づけ、「組織の強化拡大こそ要求実現の最大の保障」「組織拡大がすべての困難を解決する」とを徹底し「必ず増勢」の構えをつくり意思統一を図ることなど、新採職員、競合組織、公務公共、新たな自治労連結集、自治労連共済をいかけた拡大、次世代育成、教育・

学習活動推進、などについて具体的なとりくみを提起しました。続いて、1月自治労連組織集會に参加した伊予市職労・久保委員長(写真右)と内子町職・力石委員長(写真左)、県本部・森賀委員長が「自治労連運動の継承・次世代育成」「公務・公共組織拡大強化」「新採・未加入者の加入」を報告し、各テーマで討論しました。討論では次のような意見がありました。



③公務公共職場

「民間委託が推し進められ、直営でも非正規・会計年度任用職員への置き換えも進んでいる」「スポーツ施設はほとんどが委託され、例えば大企業の指定管理のもと安い賃金で職員は働かされている」「福祉部門も社協への委託、シルバー人材センター活用などされている」「組合が作れず、自治体一般に加入し交渉しているケースがある」など意見交換しました。

①組織強化・次世代育成
「組合役員の受け手は難しい問題。長年役員をしていて管理職昇格で組合を抜けると機能不全に陥る」など。

②新採職員組合加入
「入庁した早い段階で組合説明会・歓迎会などを行って声かけし、組合役員が組合説明をきちんとして加入している」「先輩と一緒に組合説明会に来てもらい、頼れる先輩が加入を呼びかけるのが一番の近道」「青年部活動を活発にしてみたら、青年部が組合加入を呼び



【県本部組織集會】



ることを避けるため、いろんな役割を知る機会を持ちたい」「組合活動のメリットを感じられる活動で組合の良さを持ち帰れるようにしたい」「役員任期を決め、いろんな人に担ってもらおう。青年部を執行部にも入れていく」「毎年交代で中心役員が代わる執行部では団体交渉でも対等に話ができなかった。執行部の役割を交代しながらも何年か残ることで継続した要求で話せるようになった」「青年部やいろんな形で若い時から組合に関わってもらいたい」「単組青年部の活性化をサポートし、予算もかける必要がある」など。

『令和6年能登半島地震災害被災者救援・義援金カンパ』
自治労連の各組合でとりにくんでいます
ご協力をお願いいたします



【現業評】

県本部現業評議会は12月27日、県教育委員会「学校給食担当課要請」を行い、4単組6人が参加。「教育の一環として安全で豊かな学校給食を求め、正規模調理場が改善を求めました。まず、県本部現業評議会(調理員)の基本要請「県としてよりよい学校給食を実施するために、保護者、教職員、各校栄養士、調理員との連携、懇談を大切にしたい。学校給食事業の「実施」について、県としても同じ思いであること確認。各自自治体の問題として

「保育士配置基準を考えるアンケート」や自治体担当課懇談、各市町議会請願と意見書採択などを進めてきました。今回の見直しは前進ですが課題もあります。配置基準が見直されても現行の最低基準上の保育士数の算定方法等では、実態的な増員はごくわずかと想定されます。また、この見直しで現場の保育士不足の問題は解決しません。今の保育現場は人手不足に加え、保育士の低い処遇など課題が山積しています。さらに、経過措置の間はこれまでの配置基準での運営も可能で「経過措置期間が未定」のため、全国の保育所の底上げにはなりません。運営費など財政的負担も必要で、全国すべての保育所で改善が実現できるよう経過措置期間を限定し、全ての年齢で配置基準を見直すべきです。

76年ぶりに保育士配置基準見直し 保育部会等の運動で前進。課題も

国の保育士配置基準の変遷

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
1948年	10:1		30:1			
1962年	10:1		30:1			
1964年	8:1	9:1		30:1		
1965年	8:1		30:1			
1967年	6:1		30:1			
1969年	6:1		20:1		30:1	
1998年	3:1	6:1		30:1		
2024年 予定	3:1	6:1	6:1	15:1	25:1	

保育士配置基準が76年ぶりに見直されます。12月11日、政府は「こども未来戦略」案を公表し、来年度から保育士の配置基準の一部を見直すことを明記しました。

◆4・5歳児の保育士配置基準を30人から25人につき1人以上。3歳児は20人から15人につき1人以上の職員配置とする。

◆附則で「経過措置」として当分の間は従前の基準により運営することも妨げない」としている。

「25年度以降：加速化プラン期間中の早期に6対1から5対1への改善を進める」。国が定める保育士配置基準は1948年に定められ、4・5歳児の基準は変更なし。1・2歳児の基準も1967年以降、変わっていませんでした。県本部保育部会も配置基準見直しを求め、声を自治体・国へ届けようと

給食調理員が「安全・安心で豊かな学校給食の充実」へ県教委要請

安全で豊かな学校給食を求め、正規模調理場が改善を求めました。まず、県本部現業評議会(調理員)の基本要請「県としてよりよい学校給食を実施するために、保護者、教職員、各校栄養士、調理員との連携、懇談を大切にしたい。学校給食事業の「実施」について、県としても同じ思いであること確認。各自自治体の問題として

ある。温度記録などを示し要望してはとの見解。また、残念ながらセンター方式に移行する自治体の問題として「調理員の働き方は、当事者全員の希望をよく聞き、適材適所の職の確保・適正な配置、配置換えの際は十分な研修期間を設けてほしい」と訴えました。最後に「引き続き県下の学校給食の水準の向上へ県教委が力を発揮してほしい」と伝えました。

「四国は一つ」組織強化で機能強化と共済拡大を!

《定期総会》

12月9日、自治労連四国ブロック定期総会(愛媛)に四国4県他から48人が参加。午前は各部評総会・活動交流会を開催しました。午後の労働学校では「自治労連の組織強化拡大(組合が大きく強くなる必要性)」をテーマに、榎尾自治労連中央執行委員が講演。仲間を増やすためには「組合員の団結」「対話に自信を持つための学習」「楽し



く活動できているか」「組合の自慢や魅力を大いに語ろう」などポイントを話され、対話がキーワードと話されました。続く定期総会では、経過と決算報告、「四国4県での県本部確立・機能強化」「単活性化・組織強化拡大」などの方針と予算の提案を受け討論を行い、報告・提案を全体の拍手で承認し、森賀議長はじめ新役員を選出しました。

《共済学校》

12月10日、共済学校・実務研修会を開催し、四国3県他25人が参加。榎尾自治労連共済専務理事が「仲間同士の助け合い(なぜ労働組合が共済活動を行うか)」と題して講演。続いて長尾自治労連



共済四国担当書記が「下ラブルとそこから学ぶ自治労連共済」と題し、具体的事案と契約時・請求時の注意点を確認。午後から岡上高知自治労連委員長・共済理事が「特別重点支援措置を活用した共済拡大」と題して講演。「自治労連共済知識度を上げるために必要なことは？」を目標に『ビジョンチャート』を作成し共済拡大での状況分析と活動を考えるワークショップを行い、参加者で共有しました。

『賃金』と『休暇』制度について

内子社協労組(ココロユニオン)は12月21日「賃金と休暇について」の学習会(講師・森賀県本部委員長)を開催し、組合員25人が参加。内子社協はこの間「保育・介護職員の行(二)表使用を行(一)表に改善させる」



「内子町職員の初任給改善とそれに伴う在職者調整を社協職員

にも適用させる」といった賃金改善、ケア労働者の処遇改善など、多くの成果を勝ちとったことを学習会で確認することから始め、23人勤での賃上げ、内子町職員との格差(給料表拡大、前歴加算徹底、昇格基準改善、など)について学習。後半は、この間、拡充されている「次世代育成関係休暇」についての説明後、職場での取得の状況について話し合いました。

予) 中間報告・事業内容の説明求め 労使懇談。地域医療確保へ意見



西予市職労医療介護支部は12月25日、市が進めている公立病院医療提供体制確保支援事業による2病院1施設の経営改革について、地域医療振興協会からの中間報告後、12月18日事業内容等に関する職員説明会を受け、より詳細な説明を求め

山) 現業新採全員組合加入と

松) 次世代役員育成めざそう!

松山市職労は12月14日、に参加、この経験をいか役員会を開催し7人が参加。20年ぶりの現業正規採用が実現した今年を振り返り、来年の活動について意見交換しました。①市労務職正規採用の合格発表があった。要求実現背景に、東日本大震災の自治労連ボランティア参加、熊本地震行政派遣



に、西日本豪雨の松山市内災害復旧で現業職員が連日100人規模で奮闘、現業職場・職員の重要性の認識が市内で高まり、本庁幹部に訴え続けた経緯なども語られました。②「ふれあい収集」の市民サービス向上へ増員・体制強化を要求する。③

青年部) 青年講座・四国ブロックの総括、反核へんろや新採パンなど協議



県本部青年部は12月16日、幹事会を開催し3単組4人が参加。単組活動では「ボウリング大会」「ボードゲーム大会&忘年会」「災害語り部学習会」などの報告がありました。経過では、11月県自治研青年講座、12月四国ブロック青年部定期総会などを報告し、県自治研青年講座の総括を行い

ました。また「9月16日ドキジャムへのアンケート結果」も報告され、開催場所や内容も意見交換し、今後も企画を検討することとしました。四国ブロック『反核へんろ』の愛媛コースについて協議し、3月16日に松山市内の3カ寺をへんろするコースを設定。その他、来年度新採へ青年部パンフレットの作成を決定。次期青年部役員や今後のイベントなども相談しました。

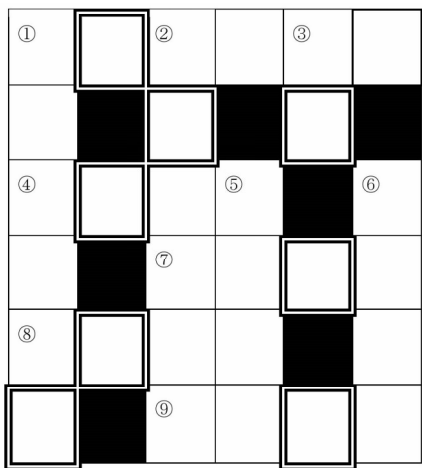
マス目を埋め、二重枠の8文字で今だと宝くじとか?な四字熟語にして下さい。

【ヨコのカギ】

- ①必ず読まなくてはならない本
④好きな本。愛読書
⑦「闇金融」の略。〇〇〇ウシジマくん
⑧心の奥底、心から。〇〇〇ほれる
⑨経験を積み、物事の裏表を知り抜く。〇〇〇山千の商売上手

【タテのカギ】

- ①ひとまず安心すること
②ある刊行物の読者の多数が属する層
③ア〇〇、は〇〇、カモ〇〇、ナウ〇〇
⑤データや情報を読んで表示する。〇〇〇速度
⑥何が言いたいのかわからない。〇〇〇かんぶん



出題者 堀川孝行

■562号のパズルの答えは「オオエケンザブロウ」(大江健三郎)でした。正解は14通でした。正解者のなかから5人の方に図書カードを進呈いたします。(敬称略)

山本 美紗(新居浜)
影浦 直子(伊予)
藤井 隆嗣(新居浜)
兵頭 龍紀(西予)
大西 梨央(新居浜)

【応募方法】パズルの解答、氏名、住所、単組名を忘れずに。また、余白に紙面の感想、職場や家庭での出来事などをお書きください。正解者のなかから5人の方に図書カードを進呈いたします。

【送り先】自治労連愛媛県本部パズル係 〒790-0003 松山市三番町8丁目10-2 (FAX、メールも可) 1面題字下に記載
【締切り】2月27日【発表】566号(3月号)

おたより ありがとう

暗い話題が続く、不安な気持ちになりましたが、自分たちでできる支援もしつつ、明るい話題も見つけていきたいと思いはやめてほしいです。

(新居浜・鈴木)

■暖冬と言われていますが、急に寒い日があるのはやめてほしいです。
■今年には暖冬と言われていますが、まだまだ春は遠いです。早く能登の皆さんが暖かい環境で、穏やかに過ごせるようになりませうに願ってやみません。

(新居浜・黒川)

■新年は推し活で娘と出かけて楽しい時間が過ぎ

(新居浜・西原)

(西予・藤瀨)

■推しのドラマやうたを観て聞いてやる気・元気をもらっています。

(伊予・影浦)

■いつも、頭を悩ませながらパズルさせてもらっています。